

施策評価シート(平成27年度評価実施)	担当部課名	企画部 企画広報課	関連部課名	建設部 土木港湾課
基本目標	安全で快適な魅力あるまちづくり【都市基盤・安全】			
施策名	港湾・海岸			
産業の発展と国際競争力の強化を目指して、港湾施設整備、鉄道や道路との連携などによる物流拠点機能の強化を図るとともに、港に人々の交流や賑わいを創出するために、竹島地区などにおける施設の整備・充実、良好な海岸景観の形成などの取組を推進します。				
施策が目指す蒲郡市の将来の姿 <ul style="list-style-type: none"> <li>●港湾施設の整備と機能の充実を図り、国際競争力の高い港湾として活用されています。</li> <li>●みなとが人々の交流の場として賑わっています。</li> </ul>				

◆具体化した施策の取り組み実績

1 港湾物流機能の強化

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
ポートセールス・要望活動	国・県へ要望	国・県へ要望	国・県へ要望
倉舞港長寿命化計画策定	- ※H24年度 倉舞港長寿命化 計画策定(委託料 4,694千円)	-	-

2 賑わいのある“みなと”づくりの推進

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
イベントの開催	5件	5件	6件

3 海洋性レクリエーション機能の充実

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
パラリンピックの練習	15	15	15
ヨット大会等の開催	3	4	5

◆評価指標

指標名	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	将来目標
蒲郡地区 外国貿易数量(t)	目標値		600,000	750,000	
	実績値	586,985	720,391		平成32年度
みなとでのイベント参加者数	目標値		20,000	80,000	100,000
	実績値	27,500	19,100		平成32年度
「ハリアフリーホップーン」マンボウ 利用人数	目標値		800	800	800
	実績値	691	799		平成32年度
倉舞港長寿命化計画策定率	目標値			65%	100%
	実績値	65%	65%		平成32年度

◆指標の説明・考え方

指標名	説明・考え方
蒲郡地区 外国貿易数量(t)	蒲郡地区で取り扱った輸出入の貨物量の増減で物流機能の状況を判断する
みなとでのイベント参加者数	みなとに於いてイベントを開催することにより賑わいの状況を判断する
「ハリアフリーホップーン」マンボウ 利用人数	マンボウを活用した海洋レクリエーション活動の状況を判断する
倉舞港長寿命化計画策定率	(計画策定施設数/市管理施設数) × 100 (%)

◆指標の分析

外国貿易数量は欧米への完成自動車輸出が好調であり、今後も増加傾向が想定されるが、原木、製材関係の取扱数量の減少が見込まれることから、平成27年度の取扱量は微増という想定である。  
 既存貨物の利用促進や新規事業者開拓の為、原木、製材、完成自動車・中古自動車の輸出入を対象に助成制度を活用することにより、貨物量の若干の増加が期待できる。  
 みなとでのイベントは、うどんサミット、くらふとフェア等の開催により平成27年度の利用者において大きく増加することが見込まれる。  
 マンボウの使用回数は、パラリンピック強化練習の実施により若干の増加が見込める。

施策の課題  
 ・港湾物流機能の強化については、関係諸団体への要望活動は引き続き行い、新規利用者開拓を行なっていかなければならない。  
 ・賑わいのある“みなと”づくりの推進については、ビックイベントの開催により増加が期待できるが、開催期間が限定的であるため、年間を通じて賑わいを創出することが必要である。  
 ・海洋性レクリエーション機能の充実については、周辺エリアの将来計画の見直しが必要である。

今後の施策展開  
 ・港湾物流機能の強化については、関係諸団体への要望活動は引き続き行い、新規利用者開拓を行なっていかなければならない。  
 ・賑わいのある“みなと”づくりの推進については、ビックイベントの開催により増加が期待できるが、開催期間が限定的であるため、年間を通じて賑わいを創出することが必要である。  
 ・海洋性レクリエーション機能の充実については、周辺エリアの将来計画の見直し、海岸環境を保存しつつ、市内の温泉地区との連携を図ることで滞在型観光拠点としての利用など、観光と景観形成・保全を併せた総合的な取り組みが重要となる。

課長評価	構成事業の進捗状況	B: おおむね計画どおり進行している。
	施策の進め方	B: 一部見直しが必要である。
	コメント	平成26年度末には-11m岸壁の一部が供用開始されているが、連続3バース建設には利用拡大が条件となってくる。そのためには、新規利用者開拓、助成制度を活用したポートセールスを重点的に取り組む必要がある。 また、賑わい創出の為、単発イベントに頼らず、年間を通じて利用される環境づくりや将来計画を見直すことが必要である。

部長評価	施策の進捗状況	B: 目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり進行している。
	コメント	国道23号バイパスは、平成26年春に蒲郡ICまで供用が開始され、平成27年3月に-11m岸壁の一部供用が開始された。その結果、自動車完成品の海外輸出が、前年度比3割増となるなどストック効果が明らかとなっている。また、今後港をさらに多くの企業等に利用いただくようポートセールスをし、全体3バース完成に向け、国・県にも引き続き要望を行う。また、港の賑わいの創出のため、「みなとオアシスがまごおり」の活用と取り組みが必要である。